

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第8巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/24622>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 8, 2012-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

11. おわりに

2つのネットワークの融合

アジア遠隔医療開発センター (TEMDEC) にとって、2011 年は多くの出会いや初めての連携があった年でした。

1 月にはベトナム・VinaREN から Cao Duc Minh さんが 1 年間のエンジニア研修にこられ、8 月には樋口直美さんに代わり工藤孔梨子さんが専属エンジニアとして就職しました。さらに、10 月からは中国の武漢にある東北大学を卒業したばかりの胡旻さんが遠隔医療を学ぶために大学院入学を希望して、研究生として入ってきました。いずれも素晴らしい才能と性格を備えた若者で、今後の活躍が楽しみです。また、九州電力からは長年お世話になった桑原慎也さんに代わり立石靖記さんが TEMDEC 担当になり、イベントのお手伝いをさせていただくようになりました。九州電力には活動初期から継続的に支えていただき深く感謝致します。

また例年通り、第 32 回 APAN (ニューデリー)、第 33 回 APAN (チェンマイ) と 2 度の APAN 会議を中心に多くの国際遠隔医療イベントが行われ、初めての国や施設、団体との接続も沢山行いました。その中でも特筆すべきは、日本の「国立大学病院国際医療連携ネットワーク (IM ネットジャパン)」との共同イベントを 4 月に行なったことです。

IM ネットジャパンは、日本の 42 の国立大学病院全部が参加する医療国際化の推進を進めるプロジェクトで、正式には 2011 年 12 月に設立されました。4 月のイベントではその設立準備に向けた遠隔会議を開催したわけです。IM ネットジャパンは IT ネットワークではなく、外国に住む日本人、外国に住む外国人、日本に住む外国人への医療サービスの向上、がミッションのヒューマンネットワークです。実はこの IM ネットジャパンは九州大学に事務局があり、その設立には清水先生や私が深く関わっています。

これまで TEMDEC では、遠隔での手術見学やテレカンファレンスなど、特に医療者同士の教育や学生の教育活動を精力的に推進してきました。その一方で、医療者が遠隔地にいる患者に対して遠隔医療相談を行うことも今後進めていくべき重要な分野です。

TEMDEC では、IM ネットジャパンとの共同活動を通じて、国際・国内を問わずに患者への遠隔医療相談や、日本の国立大学病院で患者を受け入れるための遠隔での来日前面談、患者が来日したあとの母国の家族や主治医との遠隔面談、患者が母国へ帰国したあとの遠隔フォローアップ、少数言語などの通訳を遠隔地で行う遠隔通訳、などを推進する予定です。幸い TEMDEC も IM ネットジャパンも九州大学病院にその事務局があり、効率の良い活動の融合が期待できます。

本来医療とは「国境」の概念にそぐわないものです。しかしながら、国の制度や言語の違いによって、なかなかスムーズに国際的な医療連携は出来ません。この 2 つのネットワーク活動が融合することによって、患者さんへより良い医療サービスを提供できると同時に、TEMDEC の社会的役割も増大することでしょう。

2012 年 3 月 中島直樹